

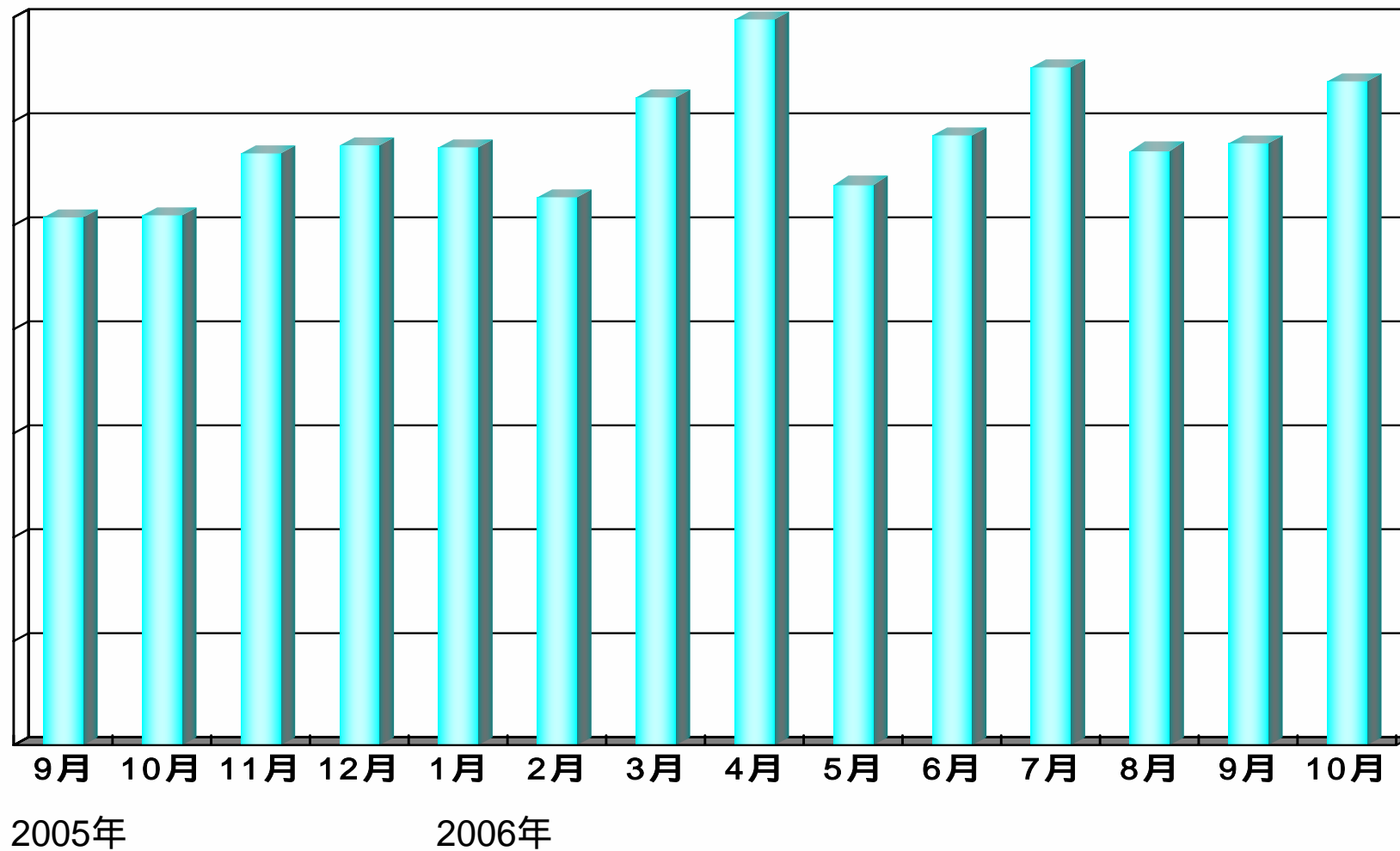
平成19年3月期 中間決算説明会資料

2006年11月29日(水)

岡谷電機産業株式会社

～ 製造業の信頼をガードする岡谷電機産業 ～

単体受注推移 (2005年9月から2006年10月まで)



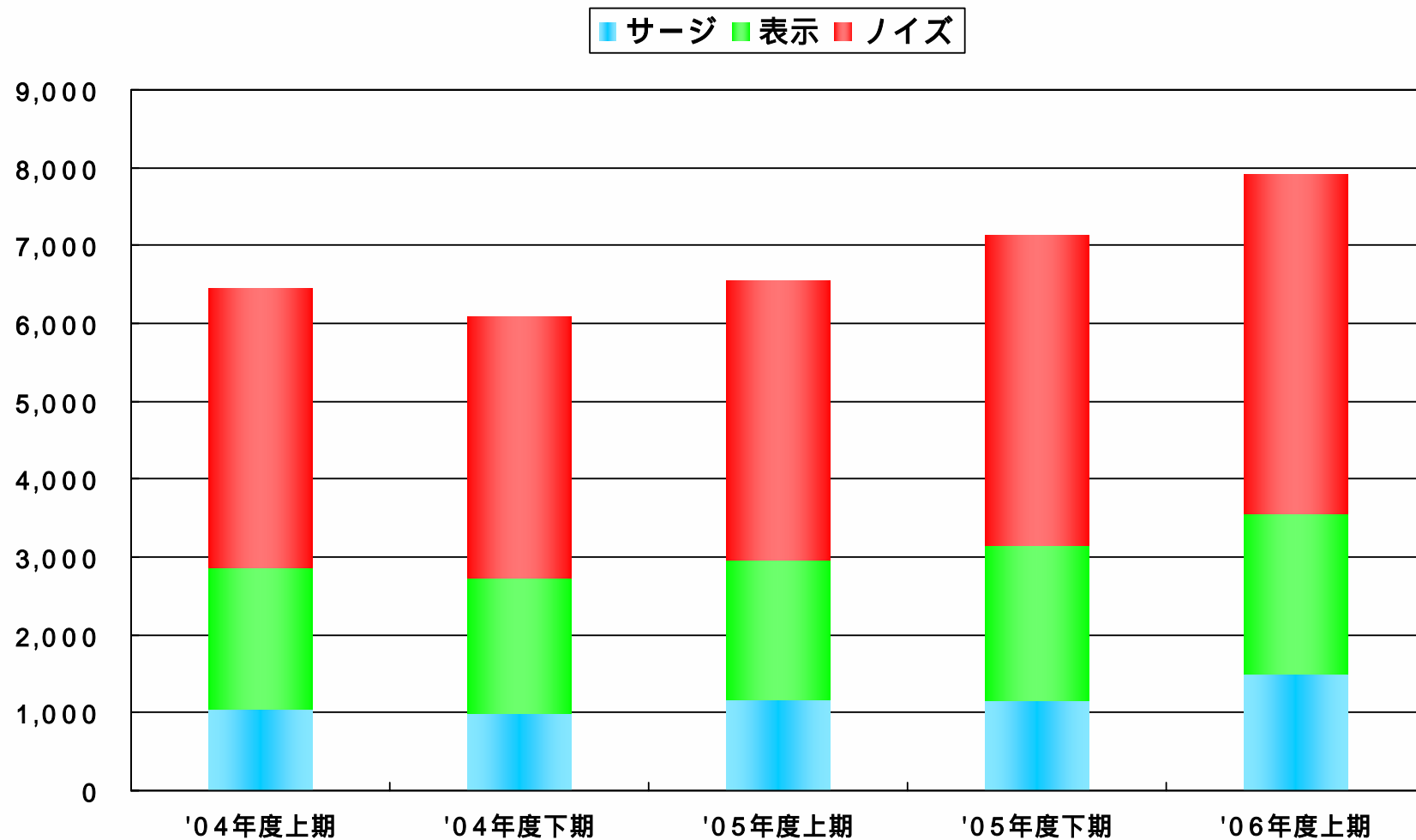
損益計算書の概要(連結)

(単位:百万円、%)

	05年度				06年度		前年同期比	
	上期	構成比	下期	構成比	上期	構成比	金額	前期比
売上高	6,546	100.0	7,138	100.0	7,915	100.0	1,368	120.9
ノイズ	3,583	54.7	3,984	55.8	4,352	54.9	769	121.5
表示	1,800	27.5	2,009	28.2	2,058	26.0	258	114.3
サージ	1,162	17.7	1,144	16.0	1,503	18.9	341	129.3
売上総利益	1,719	26.3	1,970	27.6	2,108	26.6	388	122.5
営業利益	651	10.0	838	11.7	762	9.6	111	117.1
経常利益	698	10.7	902	12.6	799	10.1	101	114.5
中間純利益	424	6.5	499	6.9	488	6.2	63	114.9
設備投資額	261		167		226		34	86.6
減価償却費	276		277		233		42	84.4

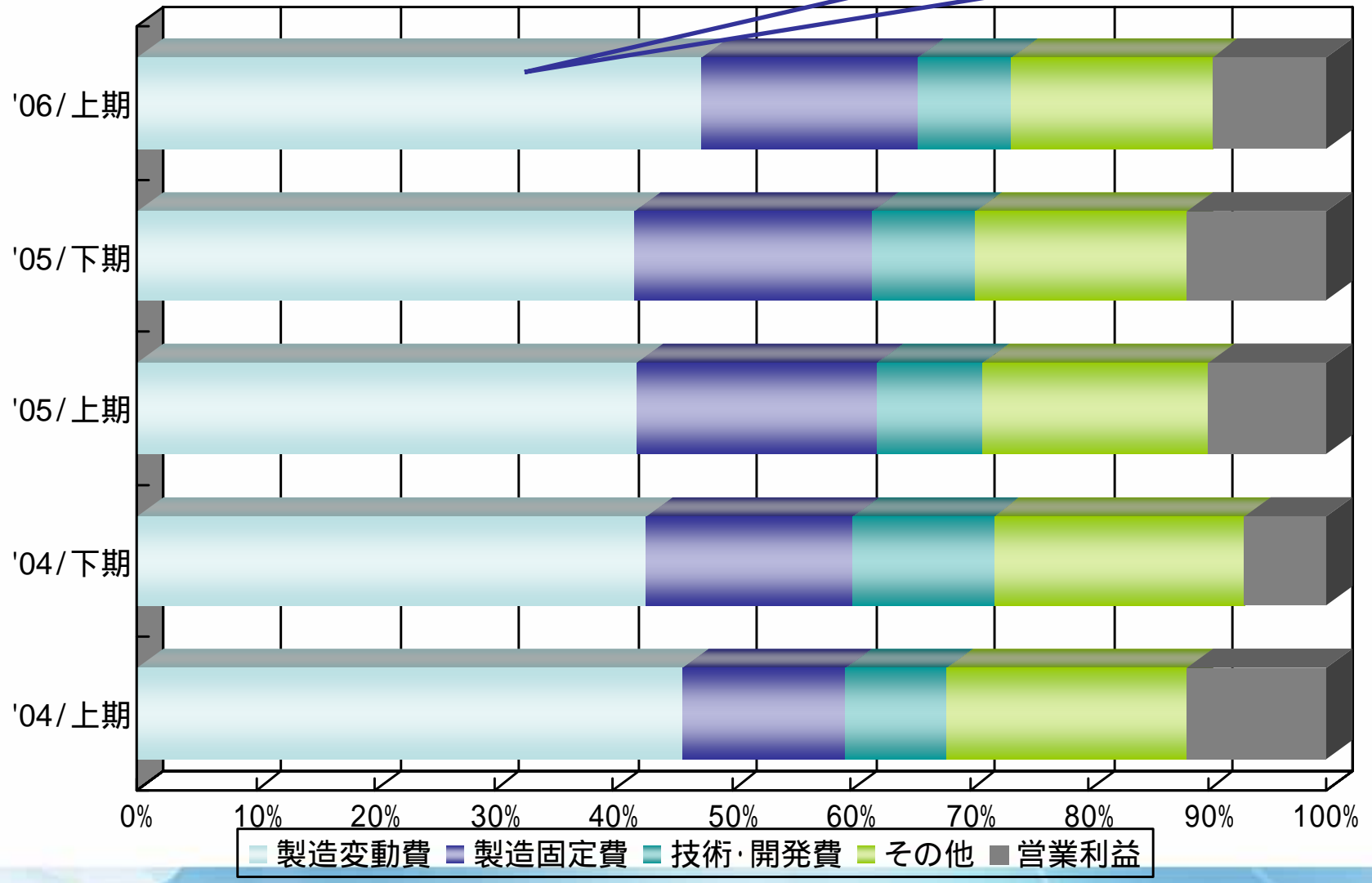
関連製品別売上高推移(連結)

(単位:百万円)



営業利益分析(構成比)

- 薄型TVなどデジタル機器向けノイズ対策複合製品の売上比率増加
- 車両内表示装置など外部仕入れ品の増加



上期の概況

売上高

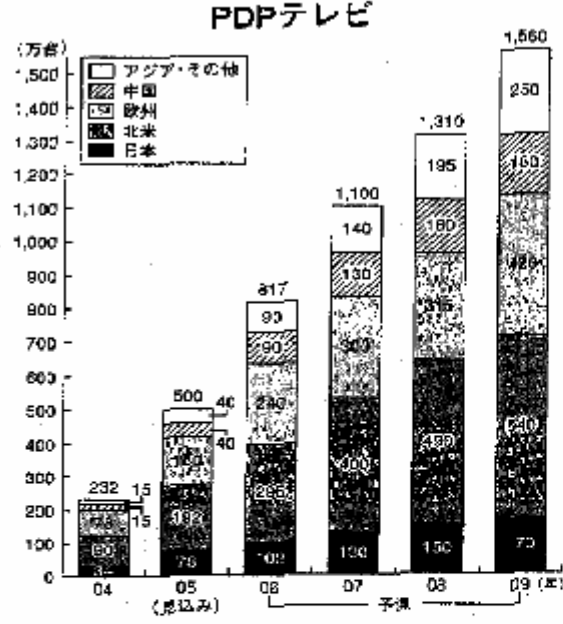
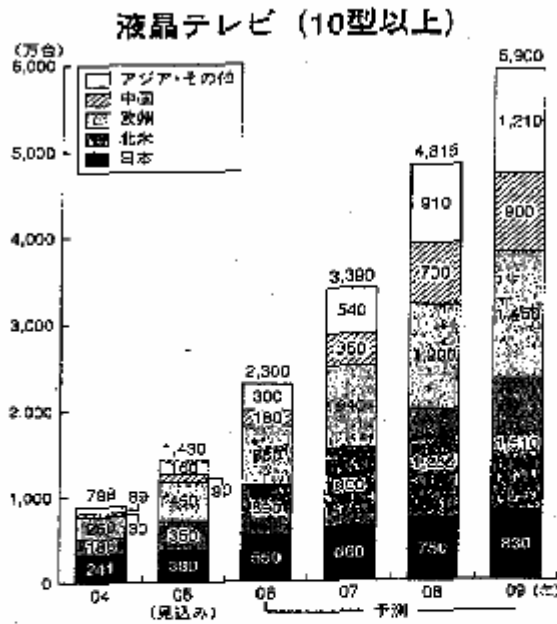
- 車両向け表示関連製品の立ち上がり
- 薄型テレビを中心に、デジタル家電の需要が活発
- 産業機器業界の需要好調

営業利益

- 新規事業拡大に向けてマーケティング力、営業力の強化・充実およびリスク対策
- 原材料費の高騰を、技術開発による使用材料の抑制により、影響を最小限化

1. ノイズフィルタの売上が前年同期比42%増加
特にインレットは70%の伸び
2. 高圧RAの売上が前年同期比25%増加
3. ノイズ対策コンデンサの売上が前年同期比21%増加

電波新聞より抜粋



液晶テレビ

薄型テレビを中心に
一気に主導権奪取も

液晶テレビの市場は、薄型テレビを中心に、一気に主導権奪取も。薄型テレビの市場は、薄型テレビを中心に、一気に主導権奪取も。

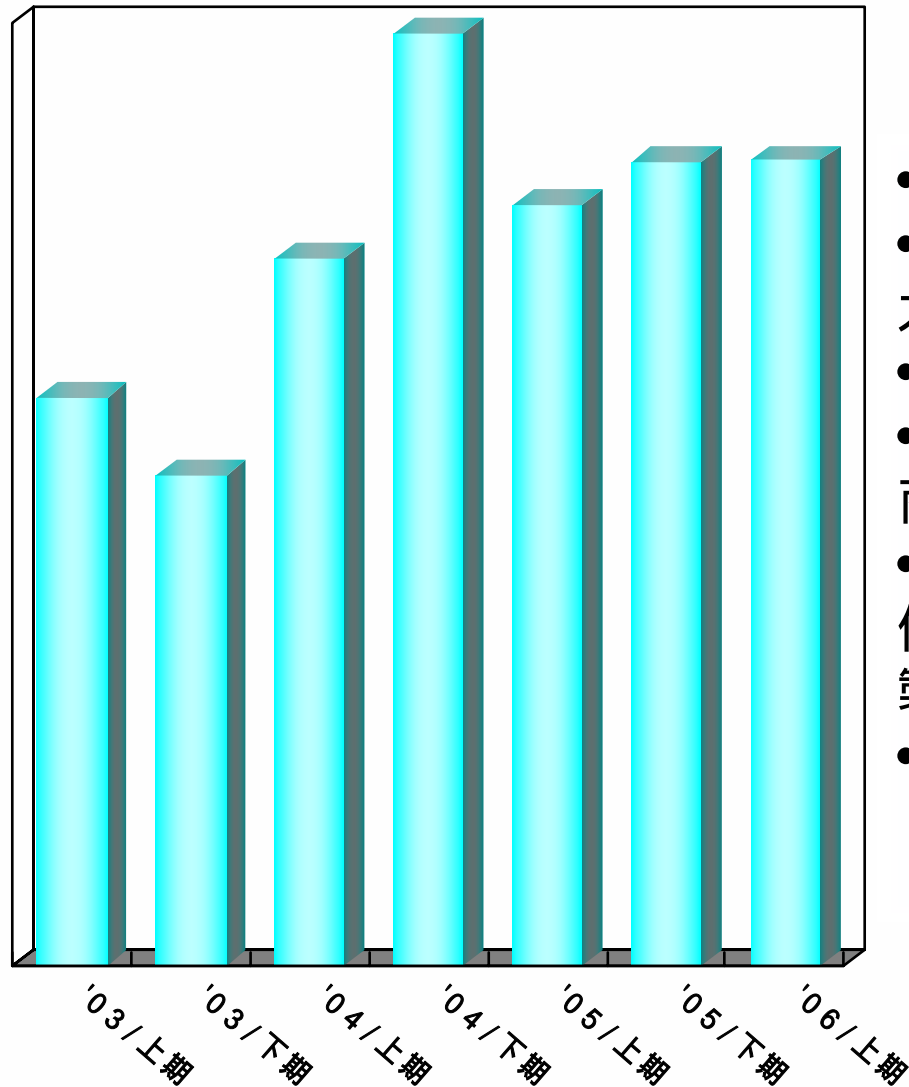
PDPテレビ

薄型・高精細・大画面
ポイントに市場拡大

PDPテレビの市場は、薄型・高精細・大画面のポイントに市場拡大。PDPテレビの市場は、薄型・高精細・大画面のポイントに市場拡大。

デジタル世界需要予測

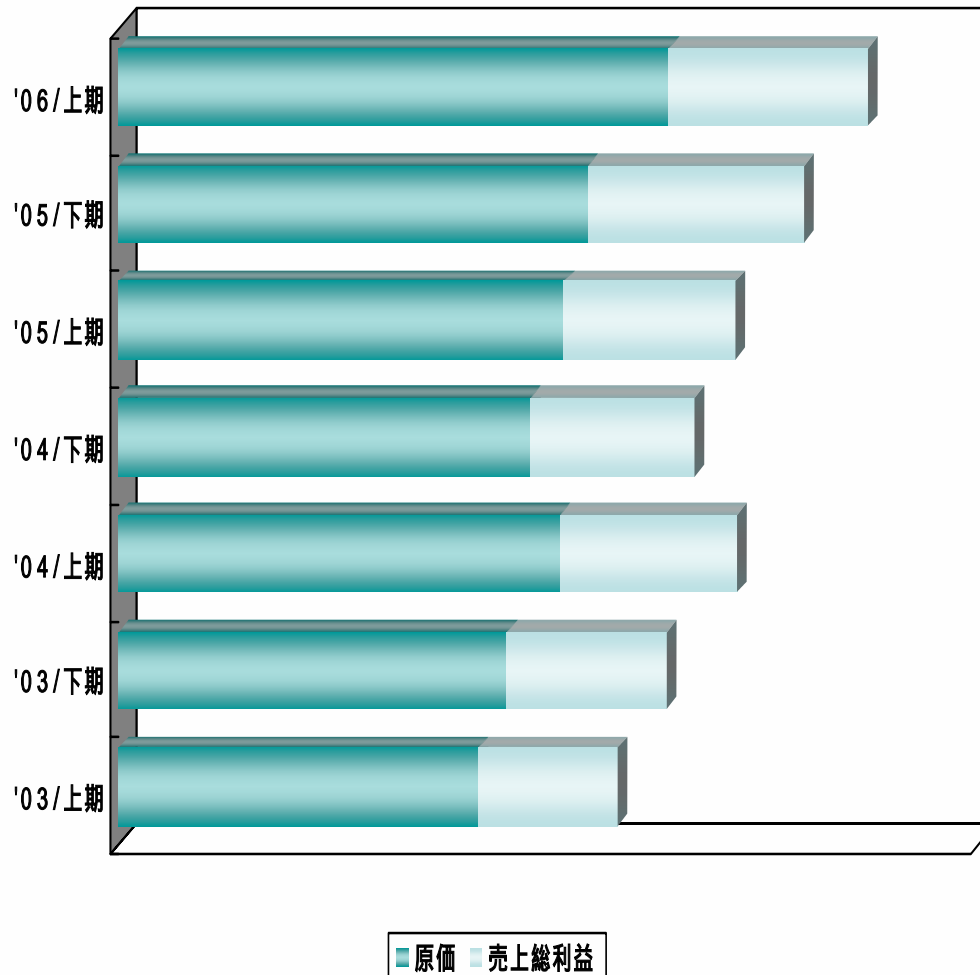
技術開発費用の推移



- 非常用発炎筒のLED化
- インバータ回路周辺の用途に使われる大容量コンデンサ
- 自動車用ランプ類のLED化
- 近接スイッチなどリードスイッチ応用商品
- サーボモータなどのエンコーダに使われる赤外線発光ダイオードの応用製品
- 電車内広告用LCD表示装置の改良

等の開発を推進

ノイズ事業の業績

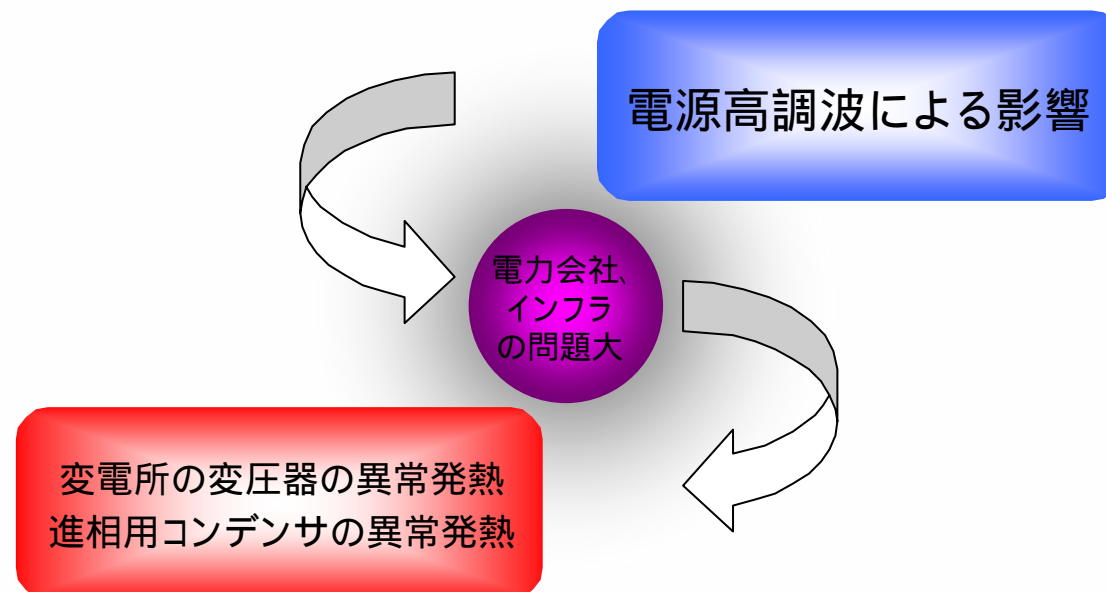


- アジアのデジタル機器需要増加
- 工作機器メーカーの需要増加
- 高調波ノイズ対策部品 (コンデンサ)の商品化
- 薄型テレビの需要好調

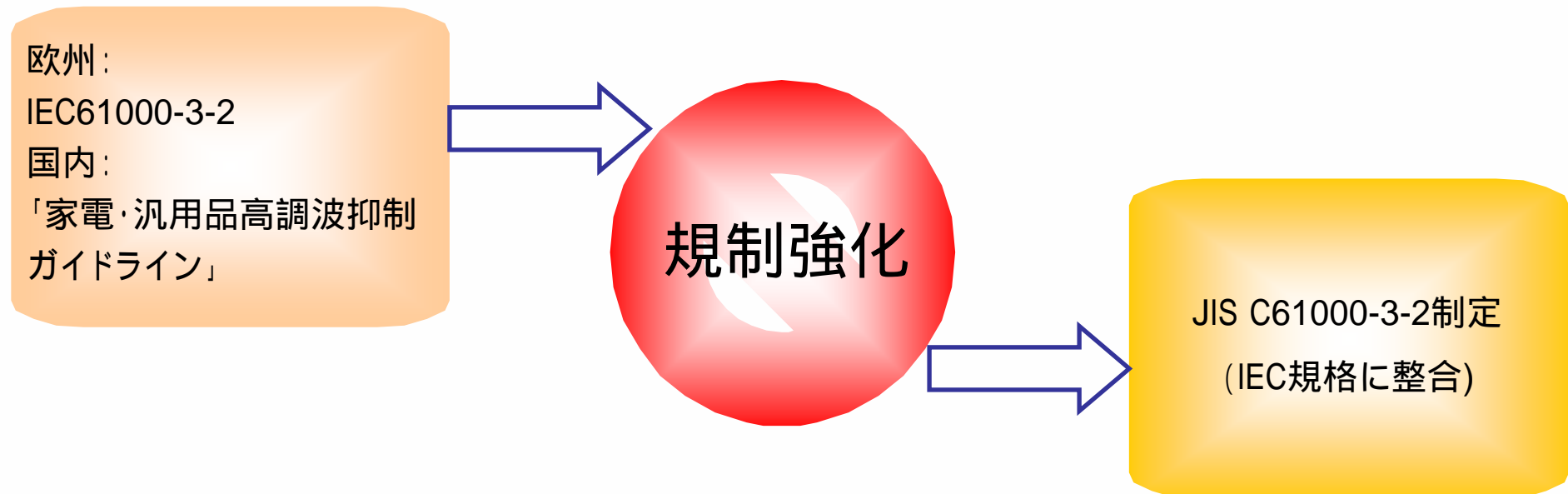


高調波ノイズ対策部品とは

民生電子機器やインバータ搭載機器の回路構成により、
商用電源を処理するため高調波成分を含む入力電流が流れる。



電源高調波の規制

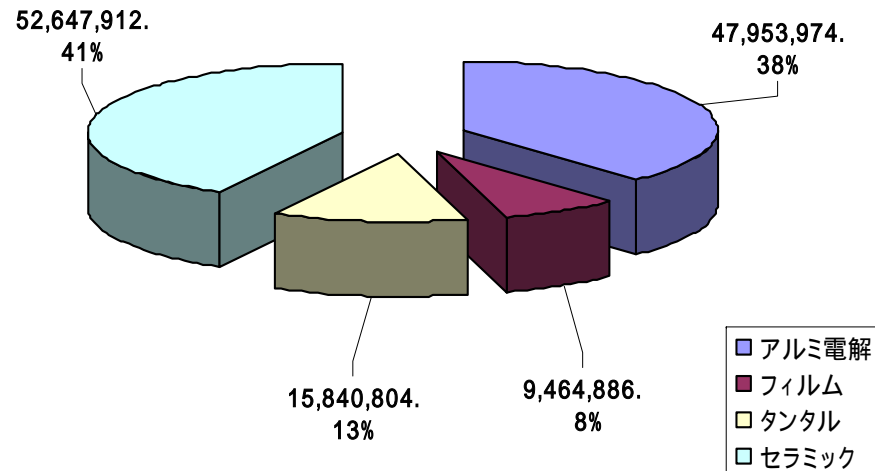


【適用範囲】

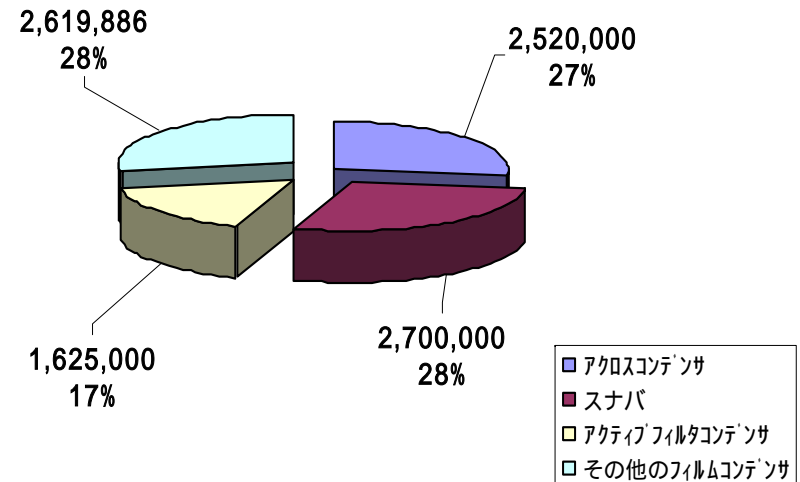
- 商用電源系統に接続する電気/電子機器に適用

アクティブフィルタコンデンサの市場規模

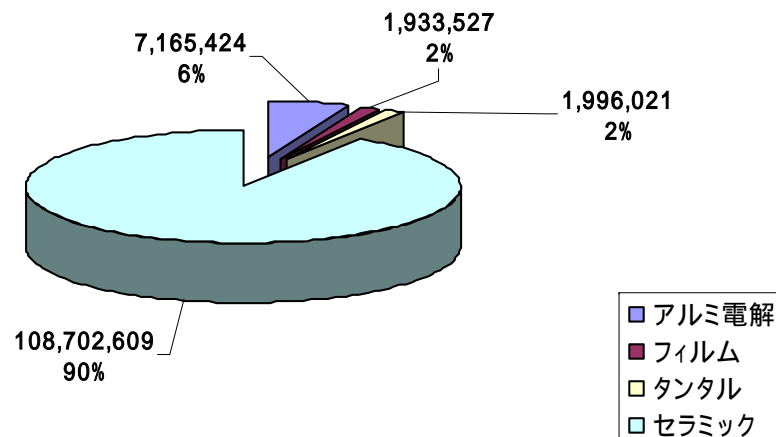
コンデンサ世界市場金額(千円/月)



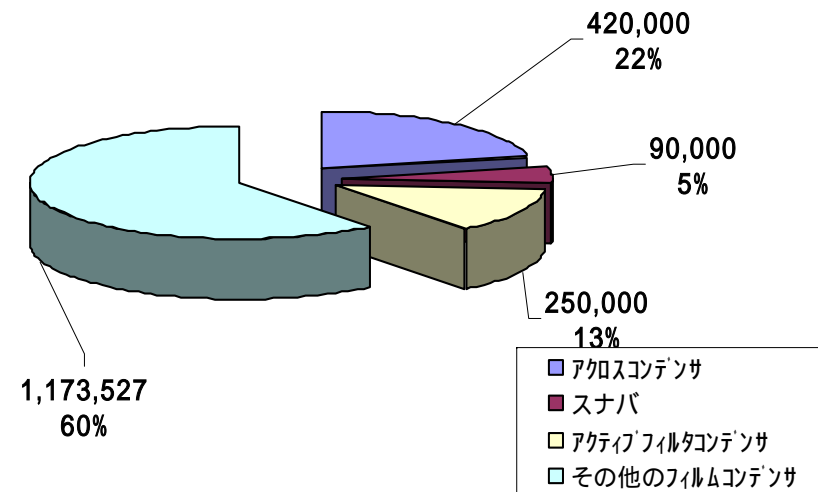
フィルムコンデンサ用途別金額(千円/月)



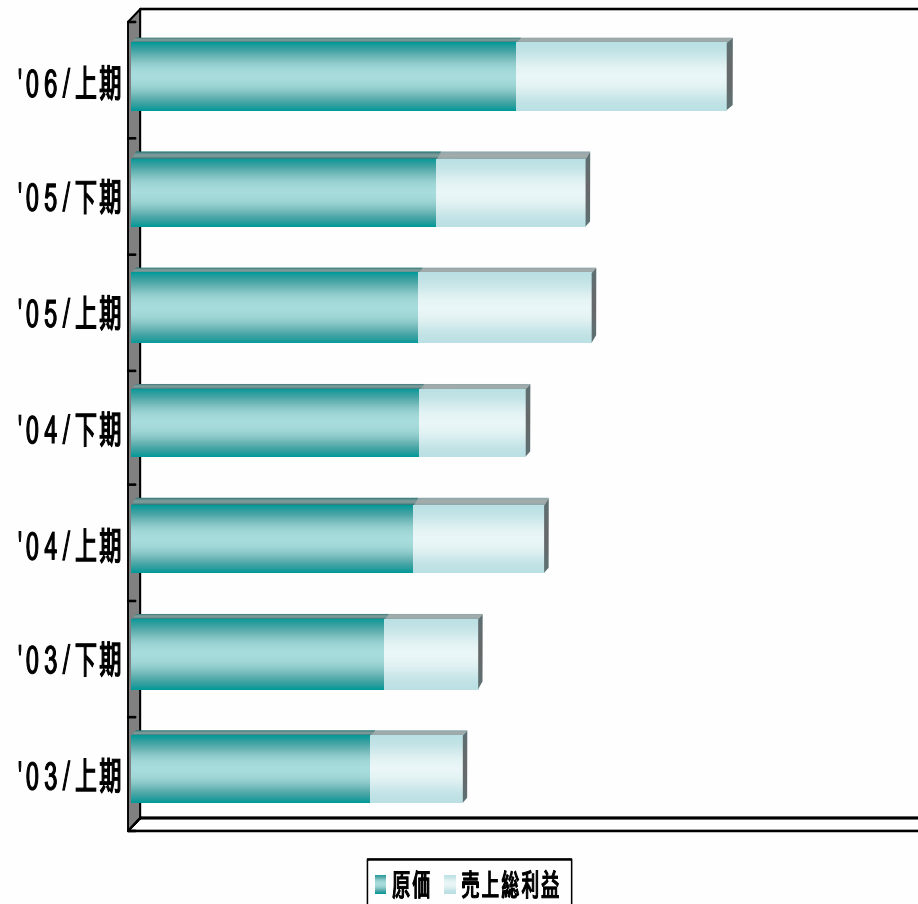
コンデンサ世界市場数量(千個/月)



フィルムコンデンサ用途別数量(千個/月)



サージ事業の業績



- 工作機器メーカーの需要増加
- 薄型テレビ向け製品の需要増加
- 高耐量・表面実装型サージ対策製品がデジタル機器向けに需要拡大
- 建築物に対する雷対策の需要増加



2006年8月13日 日本経済新聞

2004年8月25日 朝日新聞夕刊



落雷、家電を直撃

相次ぐ故障、昨年の5～6倍

精密になり弱さ

松下電器産業によると、落雷によるファックスやテレビなどの修理依頼が増えている。7月は昨年と同様の約6倍にあたる約8000件あった。パロマでも同月、落雷による給湯器の故障が例年の5倍にのぼった。

全国で落雷を頻発し、情報提供するフランクリン・シヤパン（神奈川県相模原市）によると、7月の全国の落雷数は、昨年の約1.8倍の約10万6千回。月別にみると、この4年間で最多を記録した。

気象庁によると、落雷が多いのは異常な暑さが原因。太平洋高気圧が平年よりも広く日本上空に張り出し、気温の高い日が続いて太陽熱で暖められた空気が上昇気流となり、雷を発生させる積乱雲を形成するという。

また、家電の故障が増えたのは、家電自体に問題があるとの指摘もある。落雷による社会的被害などを研究する東京大先端科学技術研究センターの佐藤一郎特任教授は「精密化が進み、わずかの電圧の変化でも不具合を起す製品が増えた」と話す。

複雑な機構を制御するマイコンを搭載した家電や、微弱な電圧で動くパソコンなどは、落雷による過電流の影響を受けやすい。ケーブルテレビの普及で屋外と家電を接続するアンテナ線も増え、これらも落雷による電圧の導入口になっている。

佐藤さんは「使用者が過電流を防ぐ装置を付けたり、コンセントや回路を抜いたりするなどの対策が大切」と指摘する。

「この夏、秋にかけて家電製品が故障する被害が各地で相次いでいる。異常な暑さが続いた影響で、平年より落雷の数が激増したのが主な原因だ。加えて、製品の精密化が進んで落雷に弱くなったことや、ブロードバンドの普及と屋外からの回線に接続されているパソコンが増え、雷の進入ルートになっていることも一因だ」と見られる。

一般家電商品においても、テレビ、電話機・ファックス、エアコン、給湯器などの家電製品への落雷被害が増加傾向にある

高機能・低圧制御のマイクロプロセッサを搭載した機器類が一般家庭に普及

サージ対策実施商品

産業機器

- ・工作機器、インバータ電源
- ・半導体製造装置
- ・ロボット ・医療機器等

家電製品

- ・PDP-TV, LCD-TV, HDレコーダ
- ・エアコン ・冷蔵庫
- ・給湯器 ・洗濯機
- ・IH調理器 等

建物

- ・建築物全体(幹線/分岐回路)
- ・保護キュービクル
- ・電灯分電盤 動力制御盤

サージ対策市場 業界別

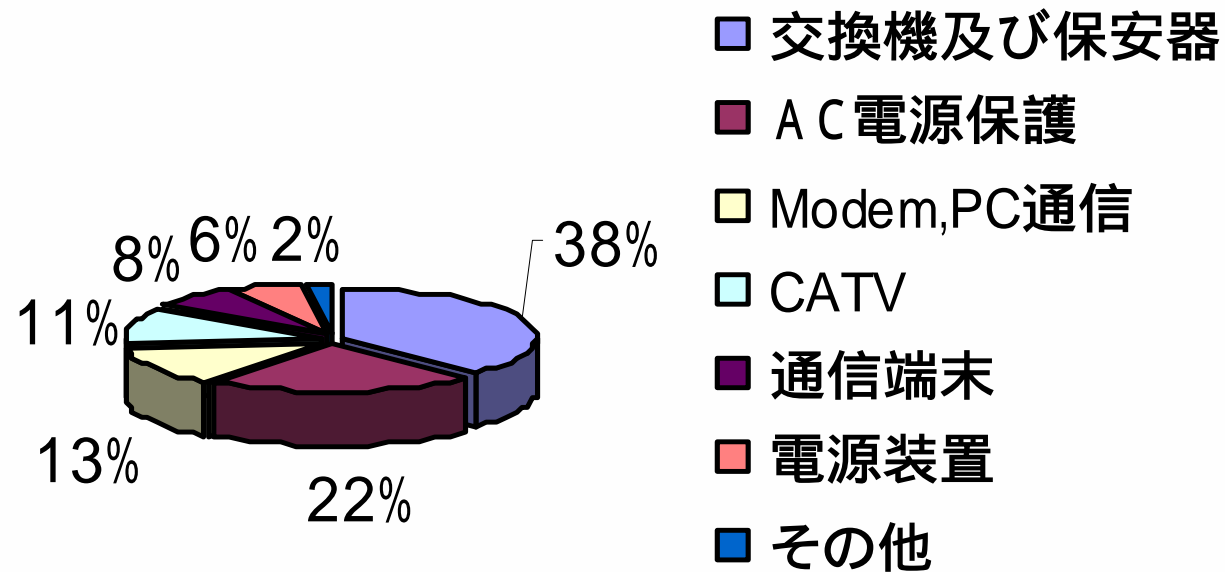
事務機

- ・電話 ・ファクシミリ
- ・パソコン
- ・複合複写機
- ・プロジェクター等

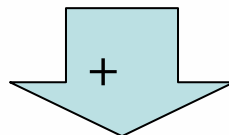
通信関連

- ・携帯電話基地局
- ・モデム ・スプリッター
- ・セキュリティ装置
- ・カーナビ ・電話交換機・PBX

サージ対策グローバル市場



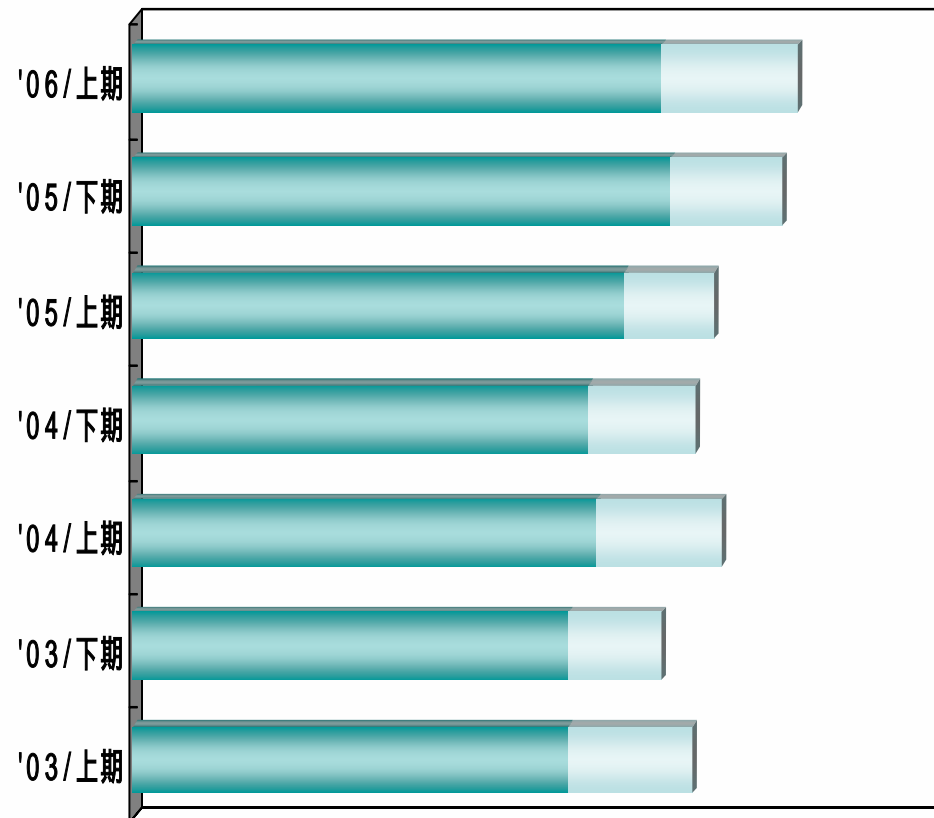
総額: 20億円/月



落雷による建物対策……………JIS A4201 建築物等の雷保護が改定

<参考> 気象庁発表…建物の雷被害総額/630億円・年

表示事業の業績



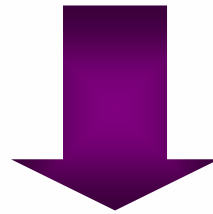
■ 原価 ■ 売上総利益

- 車両向け表示機器の立ち上がり
 - 行き先案内LED表示機
 - 電車内広告表示装置
 - トラックのブレーキランプ
 - ETC車番読取用ランプ
 - バスの足元灯用のHi-power LED
- 産業向けカラーPDPの実用化
- センサー事業の拡大

LEDは次世代の光源

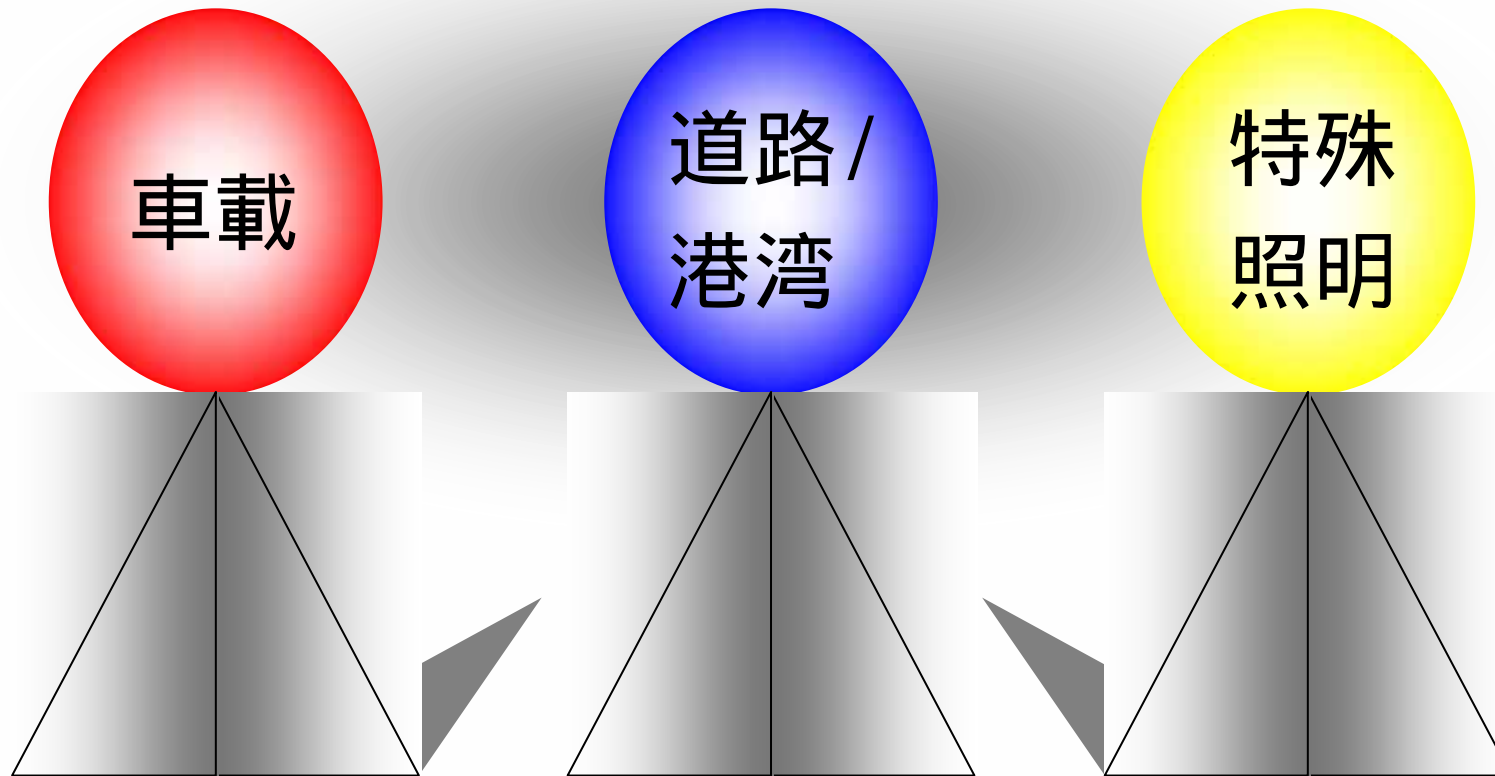
2010年には白色LED市場は
3,500億円(156億7,820万个)へ

(2005年2月富士キメラ発表資料)



LEDの需要は予測を遥かに上回り、
急激に市場が拡大している

岡谷が狙う市場



貸借対照表の概要(連結)

(単位:百万円)

	05年9月末		06年3月末		06年9月末		増減
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	
現金および預金	437	3.5%	143	1.0%	495	3.5%	351
売上債権	3,765	30.5%	4,365	33.3%	4,632	32.9%	267
棚卸資産	1,560	12.6%	1,795	13.7%	2,388	16.9%	592
その他流動資産	428	3.4%	461	3.5%	474	3.3%	13
流動資産計	6,192	50.2%	6,765	51.7%	7,990	56.8%	1,225
有形固定資産	3,432	27.8%	3,396	25.9%	3,307	23.5%	88
無形固定資産	22	0.2%	17	0.1%	19	0.1%	1
投資その他資産	2,682	21.8%	2,916	22.3%	2,759	19.6%	157
固定資産計	6,137	49.8%	6,330	48.3%	6,086	43.2%	244
資産合計	12,330	100.0%	13,096	100.0%	14,076	100.0%	980
買入債務	1,439	11.6%	1,573	12.0%	1,948	13.8%	374
短期借入金	2,664	21.6%	1,967	15.0%	2,874	20.4%	907
その他流動負債	1,021	8.2%	1,475	11.2%	1,289	9.1%	185
流動負債計	5,124	41.6%	5,015	38.3%	6,112	43.4%	1,096
長期借入金	224	1.8%	386	2.9%	217	1.5%	169
その他固定負債	971	7.8%	972	7.4%	948	6.7%	24
固定負債計	1,196	9.7%	1,358	10.4%	1,165	8.3%	193
負債合計	6,321	51.3%	6,374	48.7%	7,277	51.7%	903
利益剰余金	1,343	10.9%	1,842	14.1%	2,092	14.9%	249
純資産合計	6,008	48.7%	6,722	51.3%	6,799	48.3%	76

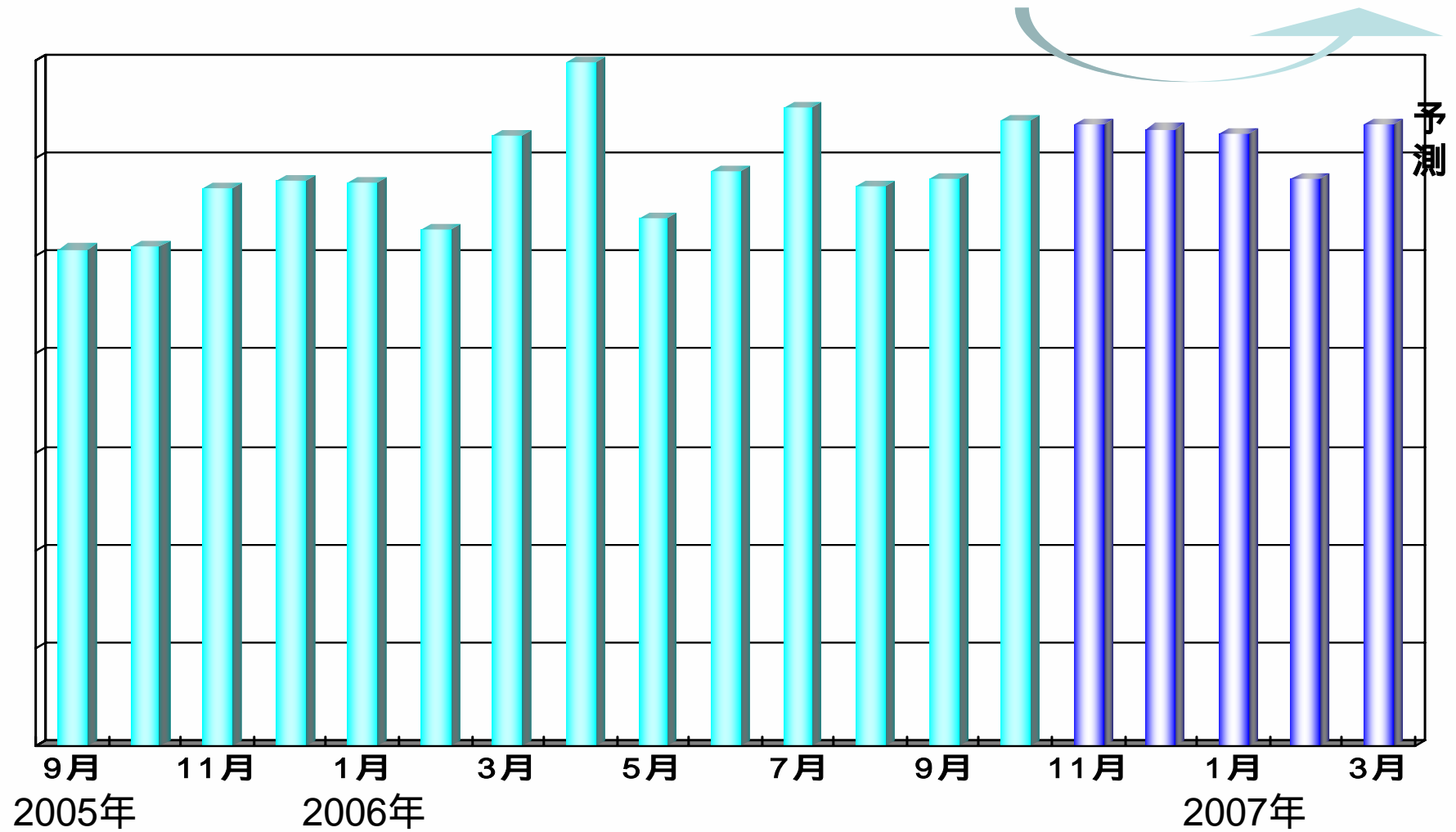
注:増減項目は、06年3月末と06年9月末を比較した数値

今期業績見通し(連結)

(単位:百万円、%)

	05年度	構成比	06年度	構成比	前期比
売上高	13,684	100.0	15,600	100.0	114.0
ノイズ	7,567	55.2	7,600	48.7	100.4
表示	3,810	27.8	3,900	25.0	102.3
サージ	2,306	16.8	3,500	22.4	151.7
その他			600	3.8	
経常利益	1,600	11.6	1,650	10.5	103.1
当期純利益	923	6.7	900	5.7	97.5
設備投資額	428		800		186.9
減価償却費	553		500		90.4

受注推移とその予測



事業環境予想

プラス要因

- 次世代ゲーム機の発売
- 各種デジタル機器の発売
- 各安全規制の強化

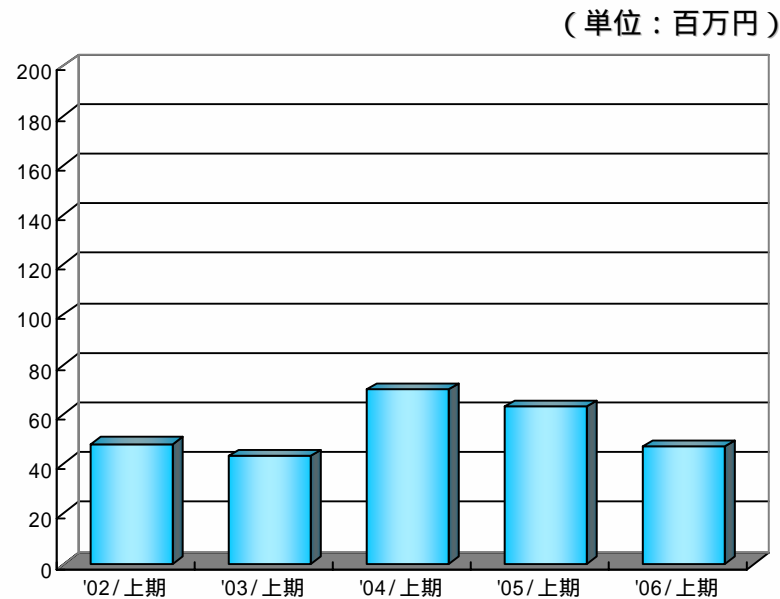
懸念事項

- 石油、金属材料の価格動向
- 環境負荷物質規制の動向
- 米国経済の減速

海外向け売上高の推移

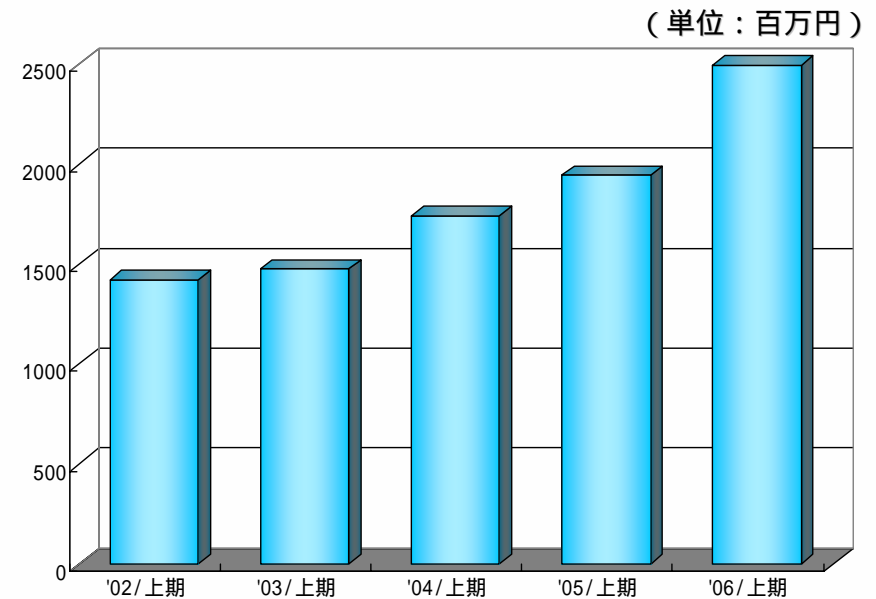
- 欧州

- 欧州メーカーのアジアシフトにより、やや減少

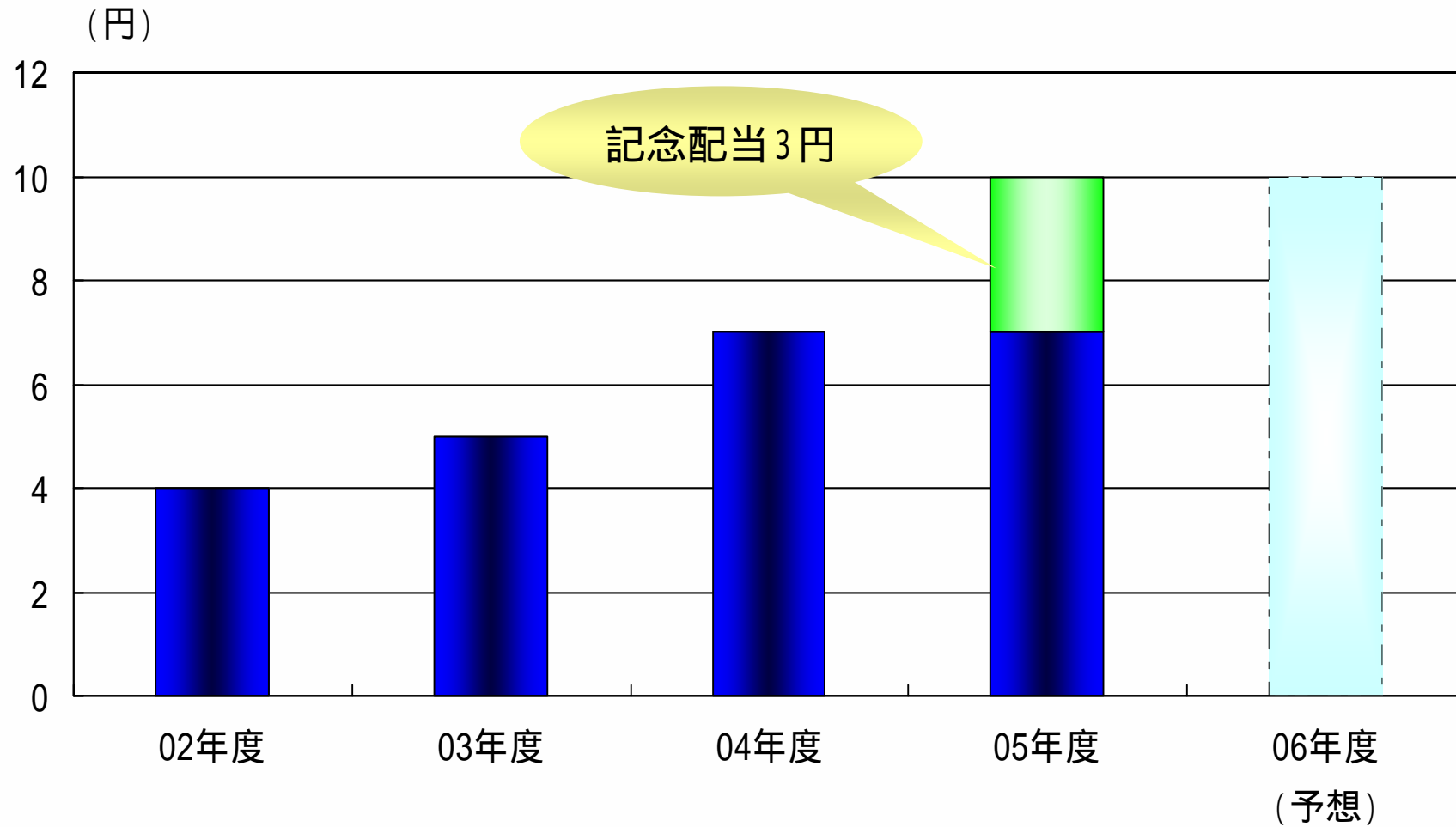


- アジア

- デジタル商品の需要増とEUメーカーも含めた、メーカーの中国・アジアシフトにより売上高増



配当の推移



第6次中期経営計画の進捗状況

- 既存技術をもとに、事業戦略に基づく新製品の開発とリリース
- 人材の充実および強化(教育体制の充実化)
- 環境負荷物質規制の強化、材料費の高騰などの逆風の中においてコスト削減の実施

ご清聴ありがとうございました。

ご質問等のお問合せは以下にお願いします。

IR窓口

管理本部 総務部 総務グループ

丸岡 滋

mail: maruoka@okayaelec.co.jp

電話 03-4544-7000

なお、本資料における業績予想及び将来の予想等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実な要素を含んでおります。従いまして、実際の業績等が、様々な要因により異なる可能性がありますことをご了承ください。